

## 2. 文学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 6 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 7 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

ジョイント・ディグリーとしては人文社会科学の分野において日本初の取組であるハイデルベルク大学トランスカルチュラル・スタディーズ・センター（ドイツ）との国際共同学位プログラム京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻を平成 29 年 10 月に開設し、令和元年 9 月に最初の修士学位を授与している。

#### 〔優れた点〕

- 平成 29 年 10 月に開設したハイデルベルク大学トランスカルチュラル・スタディーズ・センター（ドイツ）との国際共同学位（ジョイント・ディグリー）プログラム「京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻」において、令和元年 9 月に最初の修士学位取得者を輩出した。学位取得者は国際共同指導を受けて英語で修士論文を執筆し、合格と認められた者である。
- 分野横断教育とグローバルな文脈をふまえた地域（日本および東南アジア）横断的関心とを連結させた研究指向の講義群を英語で提供する目的で平成 27 年度に設置した英語講義群「Courses on Asian and Transcultural Studies」を平成 28 年度以降毎年継続して提供している。平成 28 年度は 23 科目（受講者 49 名）、平成 29 年度は 23 科目（受講者 41 名）、平成 30 年度は 34 科目（受講者 67 名）、令和元年度は 37 科目（受講者 101 名）開講し、受講者数は延べ 258 名となっている（令和元年度末現在）。

#### 〔特色ある点〕

- メディアの高速化・グローバル化の著しい現代社会の多様な問題や現象について専門的知見を基礎として考察する必要があるとの認識から組織再編を進め、平成 30 年度に情報・史料学専修と二十世紀学専修を統合し、新たにメディア文化学専修を設置した。従来の人文・社会科学が主に取り扱ってきた伝統的メディアである文書資料に加えて、現代の新しいメディア、たとえば、映像やマンガ・アニメ、ブログ、SNS などを資料として取り扱う新たな方法論により、現代社会の多様な問題や現象を分析する力を身に着け、新たな時代に対応する高度の専門的知見を基礎として、メディア産業・IT 産業・教育・行政などの様々な分野で活躍するための能力を涵養することが期待される。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

**〔特色ある点〕**

- 毎年3月に、当該年度の大学院修了生を対象にアンケートを実施している。  
平成28年度から平成30年度に実施したアンケートを集計した結果によれば、文学研究科で学べたことに満足しているかとの問いに対して概ね80%以上が「充分に」あるいは「それなりに」満足していると回答した。過去2年の修士修了者では、この数字は97%となっている。